博覽會
書籍館
藏書

見聞錄卷之九

第九匠

石瓦燒物硝子類の匠

扶匠の者一類を自然成の石人工ふく仮屋たる石、大理石、煉化石、瓦石、瓦家のかざり、採眉のかざ玉等の石細工又ハ石臼礎石等あり

土瓦二類に燒物類あり

室内を煖むるふ用うる火焚所 美語ストーブ業語カッヘルといふもの

博覽會
書籍館
藏書

弁三族を硝子細工日用おかく色てのるざるものハさらるを世義の飾りとあてべきもの又ハ擬真珠擬珊瑚其外硝子ふて種くの名玉を擬造したるものあるを

石を礦山物の族として多くハ弁一区見聞錄ふ巻之一載せたるを絵るふ大理石を家の飾つるふ用うるもの

のみく極光く英くしく磨ぎ鏡の如く艶やふふして出せるを其色種くふして鴉鶻のかくあるもあるを地を白くして焦き星あるもの茶色あるを赤色あるもの焦きものの白きもの皆石のまくふていまゞ物ふ付くらざるを出し又られふく作たる家財の族をも賜しく出したり

佛蘭西人ちかくるか石ふく火焚所ストーブ又を作りたるをあまく出ふせられを寒帝のらる室内を暖むるふ用うるものふく王侯貴人富夫の人の家ふも倚ふるものあるとび美羅をまらとして作るものかり布ふいよゞく甚色きまくあるを石をよく磨きく鏡の如く平らふし上の方と横の方とあを人物鳥獸かくさあどの形の甚ゞ巧ふあるあくく兼くゞ味義の飾りと

あるにやうふせて佛人はかゝる事ふる器用ふ
て漆ふ風韻あるやうんを用うる性質れをゞ
最うも人の目をとゞむる出ふあり玉外火焚所
ゝ各國うもふ出ふあゝ但し鉄ふて製したるも
のゝ方七匹のものふて陶器ふ作るのゝ
坎匹の方二新ふ屬て大理石ふ作てたるもの
ゝ英人の出ふせしもまゝ甚ゞ美
魯西亜ゝ名石を多く產する國ゝうとに孔雀
石の出ふもつうも多し姫出したるもあるも
板のゝくふ切てたるも紙のゝく薄くしたるも

あゝ又其細工物あまゝあゝ鈿襟留め、掏飾り耳
飾り等ゝさらあゝもあらいゝ紙のゝく色ぎたるも
ものふゝく板の四方を色ゝ札を作て簟筒の前面
を覆ひ箱等の上面とふ一あらひゝ紙ふ張て
て書籍の表紙とし一あらひゝ掛筆を外文房具を
作りあゞ七ゝて緑の色鮮ふ一て甚ゞ美一きも
のあゝて
又同國の出ふふ大理石、孔雀石あゞふ作てた
る掛筆あゝて其上ふ石ふ葡萄、覆盆子を外稚
の木の実を彫てたるを載せたり白葡萄ハ白石

を彫て常の葡萄を紫色なる石を彫りて作る石の質透明なるものにて恰好よろしき故に真の葡萄の水をふくみたるが如くにて美なる葉の彫りも亦他の木の実もこれあり推して知るべし

英國印度領の出る内に白き大理石の厚さ一寸ばかりなるものにて菓つぎの模様を彫てぬきたるあり探胥飾にの類なる石のところを幅一分ばかりにして透しぬき空りあるところ所々五六分ばかりのところもあるべきなれども缺け損じたる跡あり細工のまれを知るべし

白石にて人の像又は獸類あるひは鳥或ひは神の像などを彫て家の飾にもなすなり英國印度の風俗にして形ちは皆古代のものをまねとして彫りなせるが由其大なるいまこの人がどもに似たるもあり希臘羅巴の中にもつとも古き國なれば古代の彫り物多く甚園にのこれるをもつてこれを物の細工人を多く希臘をもとこれいふされば古のたぐひの博覽會にも希臘の彫り物煉り物等を出せり像の欠缺けたるがどもに見ぐるしきものもあり工人

のまなんとするをもつてこれらをくべ列ら孫たる古代の白石の雛像を亜弗利加のトニスよりも出ずしたる白石の雛像を各國名工多く希徧以て利を初めとして今代の名工おのゝ其技倆の妙を競へる共細工を今を以て利もつとも妙を極むるよりして其出ずるこゝ勝し放ず以て利の出ずの一二を左ず挙げゝ其余を略して小児の魚をまみ捉げゝいとたのしげ詠めゝ居るさまを彫るあるを婦人の莫大小あるを

ゞ書を讀こて居るさまを彫るまをい莫大小ふあるをゞ眼い書ふこまをわざおのゞ
うゝかるそめふあるのゆゝあるさまもえらる又
工人眼鏡をかけゝ蒸氣車の雛形を作るて居る
あるを精神全くこの雛形ふ止るて外ふうつるぞ
人をゝふして細工をする情顔ふあゝいれあ
るいを石像の彫刻を学び童子右のまふを梶を
取るを左りのまふ撃を持ち下ふを石像の顔す
彫りたるあるをられまゝ童子の眼精らの彫りか
きたる像の顔ふ止るを顔ふ八文字の皺をふしか

さハ〳〵ふ何あるとも見向もせぬ風情ありある
いは三歳ばかりの幼児小麦の粉の入りたる袋
を踏て微笑して居るを後人の叱るものあらん
と思へわざと力をいれて踏〳〵居るようしいふさ
まふ見〳〵ふあるひは童子悟りて茶碗を取落
し泣くばかりなるさまなるあるあるは又中年の女子
の幼き児を遊ばせて居たるが何事をかおしけ
ん女子は顔ふをあてゝ泣くさまをあるを幼
き児をまゝふ泣くと思ひ驚めかゝおのまも
泣あんとする風情女子は偽りて泣くさまをも
るあるまたなのかゝるを笑ひ紅のあらハるゝあど
笑のかきものハ石像あるとも其情おの〳〵眼耳鼻
ふあらハれを是ふ倣ハり彫のさまふも傳まれ
たる実ふ妙技のものゝといふべ
し

又白玉を彫て時のわきものを擬造るあり
巧なるものをまゝの石彫りふ似たりたゝへば
油繪を寒ハせるる最上の石版画と其趣向相同
じうれを倣る法を名工の彫たる像を練たた
る玉ふ〳〵覆ひ乾うして型とおしられふ白玉を

光て〻作る事陶器を製造するが如く鑄物を作るのかくまるあるを
又色の石の美しきを細こうふきまるまてもぎ合せ寄
木細工の如くふし草花木の実山水のけしき
等さるくの繪を作て出し其小なるを鉦ふ作
りあらいハ襟留めあるふ作て其大なるを机の
上面簞笥の前面あるを飾りあらいハ卦算文鎮
とする箱の上を裝ふ皆其ぶ精好上て美くし
きりのあるうれをもサイクといふこれまて以
右利の名麗ふして其物を極発たる名工多く其

出ふも又影しくあるを其精良なるを袖鉦両箇ふ
ても其價数十フローリンふ至る経机尺ばかりの
圓机あるを全分黑石の光澤あるものあるを作る
黑石の艶を最上の漆塗のかし其中ふふ色の石
あるく貝をしの形を作るく箱めらを繪のかくふ
を隈ばかりでも彼りたるたるへび螺の如き貝
の内の方あるのかきとこらい内ふまりたる方
を赤く外の方次才ふ薄くあるものあるをかく
ふをとらふあを一方赤く次才ふ薄色ふあるたる
石を用ふ画きたるかくふせをさるくの貝の間

小枝珊瑚樹もあるとうれいまたしるの珊瑚樹を落くくとぎ〳〵箱たるりのあるを園を花つあぎめく
緣りを取るまゝ畫く石をもつく石ふをめ自然
小彩色をあせるあるを石を赤白紫茶色紺淺黃
落紅黃色等を淡くのあるくしきりのを用ひられ
以右利ふも產されどもまゝ他國よりも輸入を
といふ碧色ふして那吉のわく間ふ金砂子交を
たる石を亜米利加產のものを輸入して用ひる
也此机一箇の價三千五百フローリン凡そ六百円余
あるかゝる精妙のものを出ふの翌日を也もや
買人定を某氏買ひたるを出されを附けたを
同じ小机ふ〳〵花寄せのかゝを作をたるあるこ
きまゝ甚形ち彩り美くしくして風致あを其價
を八ふフローリン凡そ三千六百八十円程あをこれも同振
たちまち買ハきたを
モザイクを古代より以右利の名產ふしてモザ
イクの額面數枚いづれも數百年前のものを
て古代の妙技の絕ふ出せを古代のりの石を
ふさき四角形ふ切をたるをあらべ使ふ移く惠
をあをりのあるをそれよりを次第ふ巧ふなり地

を一枚石にて作りたるみ色の
石を箱の様なるものゆう隈どりをもいでたるゆう
みしたり以太利の内羅馬の産物なり其国なり又
同國フローレンスといふ所にて作る物なるを
置きたる者大なる石の隈どりを空ふ意ぞなりのを
撰くて細く切らぞ切ぬきて箱のらむゆうみをて
いよ亜非利加のトニスの出るも古代のモザ
イクの大なるものあり昔の此國にてもかゝる
細工をせしなるべし！
欧羅巴の人家に石室あるいハ煉化石にして煉
化石を其外さゝ〻くの建築にも用ゐ其用こと〻
廣しされば法國其精を競ひ堅きを争ふ其形ち
又種〻なれど尋常長方形のものをもとめ石だゝ
みに用ゐるものにあるひハ正方形にしあるひハ
菱ゐを出入りに等の上に用ゐるもの橋梁の首
に用ゐるものに孤をなしたる煙突又は樋等に
用ゐるものに簡に作る飾りを要とする所に用ゐ
るものに草花かゝさ獸の顔なゞ彫りたるも
あるあるいにこれに彩色したるもあり
圓堂の周囲縦横の廊の間庭中の八九、乙の八九
これなり博覧會筆記

の附圖を見
合ハせしに細のある芝を植る其間ハいろ
いろの草花などを植るならべきこと小さき
家を立つるもあり其丈の九ハあるところハ
猶丈の煉化石の出るあり徑に写本どの半圓の
形ちハ煉化石を敷きつゝ石だゝみとあり其煉化石
ハ七八分ほどの菱形ハ化したるものハ稍
の色ハ塗りこれを組み合せ籠目ハ六出の
花のもやうをなせり半圓の一文字ハ有たる
方ハ三段の上り段あり此ハ煉化石を弧
なりハ丸くなりたる方ハ茶色の煉化石ハて

化したる探千あり是ハ稍くの様模を彫り成
し其上ハまゝ紫緑などを彩りたるまゝを附く
蔦加づら朝顔やうのもの纏ひたるまで一ツ
として煉化石ハあらざるなし高さ三間ばか
り多り其前ハまゝ煉化石製の飾り物を置け
りられ普魯社國の都ベルリンの製造所の出
ハあり其製造所ハ十二馬力の蒸氣あり
家探屏等の飾りもの數瓦壁瓦等の物ハ化
学ハ用ふる竈ハ至るまで製造せりといふ
粉挽臼ハ大風車水車蒸氣等ハ動くもあり

バ甚ぶ大なるものも用うべしこゝに西洋人の常食にパンあるまゝ温飩の粉を要まる事甚ぶ多く粉挽きの業もまゝ多くゝざる事を得ざるを諸國ゝもに石臼の出ふあるを特乙に圓堂の場ろの方に雨ざらしに列ら紙ゐて其石臼大小いろいろある内に径り六尺ばかりあるを御蔭の如き石にして紅色を帯び甚質きいめゝ堅くして涼蔭の比ふあらぶ奥地利のものゝ庭甲の十二の前に出けるこれまゝ甚稀ぶいろゝあるを砥石もわゝが國のものゝゝ大ひに違ひ皆丸き板のやうにして軸を通しあらひい踏みあらひい器械にゝ廻してまわる所ふ刃をあてゝ研ぐものゝ甚ぶ甚形ちまゝ石臼のゝ如し唯を石の質吳ある所に機巧を倣ふる細工場に設ふるものゝ機巧の運轉ふゝ砥石に自然ふまゝ甚上ふ細き筴を仕掛け重ゝれまゝ水一滴ゝ滴ぎ下をゆゝふゝ

欧邑の外二殺を焼き物陶器の殺れを陶器を何きの國ふゝも日用ふ飲くべゝゝぎふものあるバ出ふ甚ぶ盛ゝゝふ佛蘭西サキソ二ヤ普

魯社の都ベルリンあるものの皆名あるベルリンの製造所百十年ぜんぜんの前に取設けたるもの、他英吉利、墺地利のボエミヤおよび又陶器に名あるたびの博覧會に三級事務官納富介次郎ハ本邑陶器教の検査官に撰まれ甚見る所を報知せしこのば英教の教ゆる事を得たるに猶同人の調らべたる書物多くあるべし

後に利益多べし

凡そ陶器は日常食用に供する皿、菓子皿、水次、丸瓶、コップ、つぎ、嗽盤に用ふる水次、水鉢、花瓶、香爐、焼基教甚外種々の皿鉢教を初めとして壁を装ふ焼物板、石だたみに用ふる四角の焼物あるひは人物あるひは花鳥或ひは獸あるひハ魚類など陶器に作り飾とし焼き物の額、焼物の机、煙草掛等もあるひは化学に用ふる器械又は時計の時の板色もさまざまに形ちも種々櫻の如き薄紙あるは若葉に似たる緑もあるは潔白なるは白玉を敷きたる碧色あるは紺珠に似たるあるひは銅の色に擬したるあるひは金の模様あり古代模様の風雅なる彩奇の繪中うの美くしきあるひは写

真の如き画あるを又油繪の如きもあるを又た日本の模しを作りあるひは支那の風致を模倣し諸國の出品奇を競ひ巧を争ひ工夫を誇り去廊せましく陳列せるを

普魯社の政府の陶器製造所は其都ベルリンにあるを寶暦十三年千七百六十三年にはじめて建たるものにして明治四年千八百七十一年に一年の間に陶器の器數五十万を作る其質を買ひ入れたる高は十六万ターレル九千二万円程にして製したる陶器の賣價は五十万ターレル九千三十七万五千円程にいたる

いふ其出品は大小の花瓶肉皿および丸机のさしわたし二尺ばかりあるもあり、あるひは身の人の像あるひは水次酒壺等又は小さき人物の像もあるいづれも其製上等にして美しき事限りなし其繪は油繪あるを王國サキソニヤ政府の製造所は寶永七年千七百十年に建たるものにして明治四年他國に輸出したる賣價三十七万ターレル九千二十七万七千五百円程あるをいふ高さ四尺六七寸の大花瓶あるを三隅に徒ぎ成したるものあるを又三尺五寸の花瓶に油繪に

て人物を画きたるあるあり其製作こと〻さら美しあるいは肉皿の美しきあり其画は油繪あり〻花の枝をまとこし画きたるのゝあるもども風致八甚ざあり皿一枚の價二十四フローリン凡そ十一円程或いは二十五フローリン凡そ十一円程あり其外小さき人の像、魚鳥などの細工もの等いづれも精好あり

猶乙の出品ある又四角ある陶製の額あり一尺五六寸あるも七八寸あるもあり油繪いづれも油繪の人物精妙あり

りこれは小写真入きあるひは指環などみ箱めらむものゝ〻人物の繪甚だ善し

佛蘭西のコルリノーといふ人を甚都巴里斯の住人ゝ〻日本模しと称せらと先年巴里斯の博覧會ゝ金の賞牌をも銀の賞牌をも取りし人なり主製造皆支那日本の模しあり支那うつし最も甚もやう面白し龍の耳の形ちみ作りたる大花瓶は其形ちのおもしろきゝあらず地の色ゝ画のもやうまゝ温雅ゝして賤しからず地は黄色ゝして俗ゝ黄南京と

称るものゝ似たる甕を瓶の実を蓄しを書きたる支那をうつして都て支那の上ゝ出たる又同人の出ゝ薩摩うつしといつるゝ高さ壹尺六七寸ばかりの花瓶ゝ〳〵形ちハ象の耳ゝ有り甕ゝ草花をかけて赤、緑むらさき黄色等の甕の具もつともよろ〳〵金を塗けたるも平らゝ滑りてもゝ〳〵ふあるたるゝあど昔のいのゝふも下〳〵あるさゝを模したるゝゝ最も妙あるゝゝこれハ古薩摩のうつしあるゝ其外食器、花瓶等あるひゝ二度焼のものゝあど稀〳〵あるさてこの人々

全く陶器製の新屋を低く柱ゝ三四間を續ぎ合せるもの壁ゝ三尺四方ばかりの陶板をもぎ合せ壁の外ゝ蓮池を甕ごきたるものゝ如く其間ゝ小おのきゞ出ゝのゝを陳列せるいづれも精好あるゝ

同國の人ルーソーといふる者ゝ日本の口條風の甕支那の芥子園、十竹斎あどの甕譜中の甕を模して陶甕をかきたるゝパルピレーといふ人々一尺三四寸の鉢のゝを出せるゝ其模様ゝ支那、印度、土耳其邊の風を取り彩色ゝわゞ國万古

の如くあるを鉢の色をみる種々の模板を法け中央はわが國の北高漫画はまた竹は虎、風雷神鼠等おどをうつせる

又佛菓西人の出品のうちはわるを一尺七八寸もあるべき大鉢は半身の人物を書きたるもの三ツ五色の彩どを幽雅絶妙なるものあるを又壁をかざる色き造る花、生け花を植う色きものあり其外食器、花瓶、燭臺、魚鳥の細工、貝畫しの菓子皿等繁をもつくあけがのはふしたるあり

ハシューといふ人の食器々るのやうは透き通る質のものを用を多くせば染色を鮮やかなる質の善きと藥の美しきを博覽會中の一二ともいふべし

ブーランセーといふ人の食器々堅地はく模板新らし品を格別よるものはあらざれども其價を極めて下直なるを製法を簡畧なる事を工夫し價下直にして出来るやうはせしなるべし

英國の陶器々大は自余の欧羅巴諸國とかわり雅なるもの多し其政府の製造所の出来は日本の象牙細工を模したるは花瓶筆立等あるを用々蒔

繪を模したるは精好しといふべきものなれどあらざるとも能く象牙の艶を賽せたるこれい極上の藥をきハめ〳〵柔らかふし燒き上げ〳〵後上を研ぎたるあるは映発明を去年の事ふく製し出して初めて坎博覧會ふ出したるこれいふ又日本の男女のたちたる姿を燒物ふ〳〵作るたるをこゝふ出したるは

英吉利のミントンといふ人の出ふふを紺色の陶板ふ白き画の具ふ〳〵人物を画きたるふを黒木の箱の四方と上面とふ附けたるあるは最上のものあるは又緑茶色の香爐、花瓶甚だ美くしく掛時斗のわゞ薩摩ふ似せひぐふしふ古風の模拓を画きたるありあるひは茄子籠ふ童子の立たる燭臺高さ一尺ばかりあるは其籠のふがたふ〳〵ろ童子の背負ふきハ〳〵細このきもやうあり初め陰〳〵ふ似て模拓を画き後本竈ふ〳〵續ぎたるものあるべし其人を用ゐたるかもふべしこの外大ハふ水瓶、壺の類櫻ふ茅花瓶等をべて支那風をうつし紺ふ〳〵かゝ草を画き又ハ打こみふしたるあゞ中〳〵英くし皆ミントンの出ふあり

甚外古伊万里焼をうつしあるひは支那の揭をうつし又は琉の巻毛る花瓶あどあるは琉は日本支那の形ちはあし甚器は通例の欧羅巴風はしたるものあるひは四角の額面あるひは楕圓の額面あど漆附の山水人物のものあるはこれは佛蘭西うつしなり

英國のミントンホルリンスの社の出品は壁をおかはは用うる板瓦あるはこれは各四寸四角厚き五六分ずつの焼物の板はふく古今稀くの模様を画きつぎ合せ〳〵壁を覆ふものあるは又同社の出品の敷瓦は寸法前の如くはして黒、白、黄、亀、赤、青、緑のもやうを色くの石あるひは玉又は硝子の粉を練りて作る雕り埋めたるがかく極めて堅き型をもつて押かためて焼たるものあるは甚さ以て利のモザイクは似たれべられをもまたモザイクといへる世界細工各國の出品は多くあるど也来此社の発明あるもいはは或ひは五寸に方の板をつゝ祢山水花鳥の一枚繪をかせるもの又は横幅五寸許り長さ三尺ばどの陶の板は花鳥人物あどを画き聯の如くは　見因るもあり

られを壁の飾りに用うるものあり風致あるて
おもしろきものなり
其外子ども二人あり花籠をかつぎたる或ひは
錦出し金もやうの入たるなどあるひは日本の紙の
形ちを燒物あり作るたるあるひは賴朝の画を
書きたるなどあり皆日本模しなり
元来陶器は支那日本のものなれども古く且有
名なりし故右のごとく英佛の出品に模しを多く
出せりさて其日本を模し支那を擬するも其
作に学びしかく模するあるいは味をうつしてた

趣向を変じ形ちを賽せてたをを形ちにし智
巧を極発工夫をこらし遂に極骨拙拾の美しき
をなせりされど各所の製造所日く彩形を発明
し輸出る年々に増せるを強るに支那の工人もと
もとこれいよ〳〵巧き工夫もなく他の術を学ぶ心もなく
有来る昔のまゝに製造るゝ〳〵共変出せし陶
器の種類を彩古の書礎、珠砂焼、青花画模板、黄南
京等〳〵いづれもあしきにあらずこれは昔
の姿に止まり彼を年々彩たるに比べ遂に及
ばざるを見るべし実に欲すべき事なるべやう

の國各所の製造場みくらみんを附け
輸出を多くさるやうみせよかしき事なり
支那の七寶細工を有名のものみしてこのゝび持
ち來るも中くすしわが國みくも近來次第り
巧みあり劣らぬ細工をするやうみありぬ然るに
佛蘭西人これを模造せんと先年よりんを用ひ
幾度の仕損じたりもんを屈せば試檢をな
し七年ゐして遂みに甚功成るくいたらのゝび出ふ
したるとゝみ甚こ出る際もよく役ごらみも味あり
これまゝ西洋人の職業みんを尽し次第みに進歩

さる一證あり
墺地利の出ふみも支那を模せし壺を見たりこ
まゝみを支那の文字を模しあらひを支那の蒔繪
を模したり或ひを八尺余りの九尺の花瓶六尺余
りの燭臺あり又池繪の額の巧こるあり其外諸
種の陶器を出せり匂加利みくを英佛を模しあ
るひを日本支那をうつせり其内日本の古伊万里
をうつせしをこゝさら真のものみ近加り
又かゝうのみまゝがいさる燒物類を出せりこれ
らをもゝとも陶器の新形なゝと知りあゝがゝもあ

やまちて銅器を交へ出せるこゝかりの汁を其銅
色真ふせまるといふべしかゝるを賽ハ佛蘭西の
新ふもつくるを
魯西亜の新ふをやとて三尺二三寸の九机あるま
ゝふ花寄せを画きたるを細工も画も精密ふ
又切ぬき透しの皿茶碗あるひハ金物細工ふて
續ぎ多ふ花瓶あるひハ丈さ三尺幅二尺三に
寸もあるべき額面ふ油繪ふゝ佛像を書きたる
ふど甚ふ精妙ふ又丸き額ふ硝子を張て中ふ
陶製の造て花あり其巧みふして細ふき事布細
工、紙細工の造て花ふもおゝきなものふて
以ハ利の陶器ハ多くハファイヤンスとてわが國
の蘆麻燒淡路燒やうの古質ふゝ透明ふゝざる
ものあるいづれも昔の細工を摸したるものふ
て其画摸拓今日の風ふて大ふ異なる緑、赤、黄
色皆本窯の着色ふして上代のいとのふもとふ
る風を摸せるとれまゝ雜きわざふて然ハ
のを絵ゝマヨリカとゝ唱ふるハ以ハ利の出和
いづれも然一種新の意ふして別ふ彩奇のもの
ふし然ども其最も精妙ふるハ地ハとき茶

色の陶器にてられる白土をぬり小刀にて模様を彫りてらみ地の茶色のあらはれたるものあり其刀法甚だ妙なるさく彫あげて後上薬をかけ焼たるものとこれも精妙なる事比類あるし茶碗もこれも黄色の模様あり

和蘭の新に出て紫色にして透通りたる水差あり

硝子にて製せる

瑞典の出る切ぬきぶどうの大蓋物あり

花の細工物に連環をつけたるあり

葡萄をつくりたる等いづれも細工の精妙なる見る人の目を驚ろかせる

其余西洋の諸國いづれも陶器の出るあり形ち色も大同小異なり

土耳其希臘埃及トニス、ローマニヤ及び亦印度の新発明にて多く素焼の陶器あり其製似拙けれども古雅のおもむきあり

魯西亜の新に出る又五大洲の男女の半身像を陶器にて作り骨相血色其國土のさまを顕はす

むかし下に何洲くくを國土の名を配せり

これらのものも其製作いづれも区のものに

もとゞも其用を才二十六区教育の新に属さべき
ものなり
九区の才三教を硝子細工にしてこれまゝ各國
ゝも亦多少の出品あるそのうち墺地利國ボエ
ミヤ州の出品らうゝも多くして且美くし大なる
蠟燭建あり天井ゝ垂き下ざるものにして鍍
金の木の枝の如き形ちのもの長さ九尺余り
あるこの八方に出でゝ出でゝこれも硝子にて作りた
る蠟燭立数十を三段あるひは五段につゝぬこ
れも硝子にて作る花を結ひこれより硝

子の三角柱の長さ凡そ寸ばかりあるをたゝ
ば造る花にはけたる短冊の如くあまゝ下ぎた
るかくの如きものをかけ連ら絲たるとゝろを
遠くにめで絲生のゝ様盛りにさく丸きたる
ごとくまた又あゝ硝の岩ゝ亦碎ゝる波の花のごとし
日の光線を受くる時は其三角柱を通し碧紅黄
色等虹の如き七いろをあらはしゝかゝるゝ
つくしき影をなせるゝ
その外硝子細工の物は甲の長廊の才九を全く
占免このゝゝろに亦あらべつゝぬ甚品くゝ盃形

のこ、大小の皿鉢等をいふみなべなどで瓶子、水つぎあるひは鏡あるひは櫛の底飾りなどもまた婦人の耳胸飾りあるひは全く硝子もて作りたるもあり丸机あるひは径一尺ばかりなるもあり長さ七尺ばかりなる硝子柱も出したる五色にも彩る硝子板大小いろ〳〵あるべつぬ

硝子細工の器物の色は種々にして白きは透明あるひは曇りあるひは玉の如きもあり青きは碧色藍浅黄枚瑰の色珊瑚樹色などを常に小豆の如く透明あるは澄たる水の紅を流せしが如く若葉の緑老木の古葉朽葉色なる葡萄もまた似たる栗色茶色の濃き薄き黒きは瞿麦の漆の如しあるひはこれもさまざまのかたをば高く鋳出したるあるいは低く彫り窪めたるあるひは其地をくもりもなかし模様を磨きもまた出せるあるは金もまたもやうを画きたるまたいつのけをかしたるなど金色のあざやかなるが硝子の色にも映じ合ひて美しき事極まりなし又七寶を模せしありあるひは白き瓶子の玉の如く透

明あらぎしておのづから温雅あるふ古代の俗及甲うの禹を墓あく書きたるあど苑しくして俗あるぎど温雅ふして拙のうちで又今ゆうの禹のうちくしきい草花人物あどを泄禹ふて禹けるあて硼子の地のさまざまあ彩ふ禹の具の萠黄、紅等かぐやき合ひ陶器ふかきたる泄繪と石又おのづから おもむき異れて

凡そ坎のわき硼子細工を坎去廊の左右と中央の通るふ幅甚ぐ廣き高机を置きを上面を一面ふ鏡を數きを上ふ右の如く緑紅色しくふ彩

硼子細工の諸物をつくり称たるど其さ面たるべ井出の山吹此路の萩龍田の紅葉あどの形ふ映じたるもこれふ勝るべくもあらずと思ふる其上ふを前ふ有るを花ざてつて ふまのみで うての幅燭立あまくし垂を下し左右の壁ふ姿見の鏡あまくし掛け大ふいうくの玉鏡をも下げたるど硼子を互ひふかぐやき合ひかしこてふ映じうてふり三角柱ってて反射する七色を互ふ間ふ動揺するふどを実ふ水晶宮ってもいふべきものあり

玉鏡あり　あるあり径二尺余のものも尺
たらず姿見の鏡を幅三尺余丈さ一間余にして其
價二百七十五フローリン　九千二百十円ばかり　あるあり
同じ大きさにして千フローリン　四百六十円程　あるもあ
るも皆其縁を金あるを又大なる鏡の中を楕圓に仕
切りて常の鏡の如く磨き周圍も共に水硯を布
てあるあるあり曇るを嫌ひ曇と深き上げとなりてか
ら草のものを出したるあるを其價を十二百フ
ローリン　五百五十円余　あるあり　黒き木にて簡雅を
仕るあり古雅なる雕をしたるあり金縁あど

のかく花くさくさざれども雅にして上品あり
丈さ二間半を幅八尺ばかりを價を九百五十フ
ローリン　四百三十円程　あるを又佛蘭西人の出品した
る鏡を幅五尺たらずを丈さ二間余もあるを周
圍に五色の硝子に水硯をしきたるをいろく
のかたちに切り、組合せて草花の形ちにかし
られを以て纏ひ飾りとなし左右に秋草花
の間に童子の立たるを作るられもつとも美し
きものあるを其價五千フローリン　九千二百円程　あるを又
同國の出品に幅二間丈さ三間ばかりのものあり

られまゝ鏡の最も大なるものあるを
擬地利の出羽厚さ一分あるひは五分あるひは
一寸の磧子板の鑄たるまゝみしていきなり研ぎ
ぎとのざるものを出せを姿見の鏡みるる地板
あるを甚かゝるみ共磧子板を研ぎ磨きさるる見
かをもつゝ孫あるひは水硯の敷かゝの足なも
数種出せを
圓堂の内ゐも姿見の鏡の地板いらゝあるひは
鑄たるまゝあるものあるひは研ぎたるもの
あるひは全く研たるあるひはくるをみ研ぎた

るあるひは磨きあげたるあるひはそでみ水硯
をしきたる等陳列したるあを
又磧子を甚ぶ細く吹きて糸とあしられ布
を織りあるひは婦人の帽子を外様のものと
糸せるあを磧子の糸のゝ用ゐゝ絹糸は少しも
用ゐざれども多ざるを中ゝこのふして糸織りの
ものゝ如きを多くせを以ては利國屋子こやの
細工といへども是れ有る物らしゝ人ゝ賞歎せ
を
其外磧子細工みゝこまつき品を卦算文鎮を

初め種々の文房具あるいは種々の玉とかしあるいは大小色々の鈕釦とかしあるいは婦人の耳飾又胸飾りとかしかどを其色さまざまなるあるあるいは瑪瑙あるいは琥珀あるいは真珠珊瑚樹孔雀石等を擬しあるいは金銅石を擬したるわど琥珀の色艶真珠の光を製作のようものは真の物のごとあるいは五色の硝子をよせ合せ以て利のモザイクの如くかしられ机を作りたるあるべし白耳附の瓶ふも径一尺丈さ一寸余の硝子の管を

初め大小種々の管あるは又五色の彩硝子を模様を研ぎ出したるもあるは猶乙の彩ふも焼畫の花のごきものを外種々の食器硝子板等の類あまさ出ぶし自余の諸國もさるべの出ぶあるて住居も次第ごとしいへども奥地利のものを不數も多く且つ有名あるものあきど專ら奥地利を錄して余を略す

此ふ國肥前の有田の陶器製造所ふ才一等の褒賞を得角ふ其外才一等の褒賞を得たるハ

一獨乙州普魯社の都ベルリンある政府の陶器製造所同國スレシヤ硝子製造所各一ッ
同州薩索尼のマイッセンある政府の陶器製造所同國ドレスデンのフヒレロイ及びボフヒい
ふ人の粘土細工同國同所のシーメンといふ人の硝子製造所各一ッ都て五箇
一佛蘭西の都パリスのデッキといふ人のフワイヤンス同所のパーチエ、アッド及びペピン、レハレウル、プレールといふ人の陶器、同國セフレの陶器製造所同國の都パリスの化學用の硝子の器械製造

會社同所のフヱイル、チヤルレスといふ人の硝子製造所各一ッ都て五箇
一墺地利國の都ウヰンナの硝製造所、同所のスライベル及び子ッフェンといふ人の硝子製造所、同國ボエミヤのメイルス子ッフェといふ人の硝子製造所各一ッ都て三箇
一魯西亞政府の石切子場、同國の都ペートルスボルグの政府の陶器製造所、同所政府の硝子製造所各一ッ都て三箇
一英吉利のミントンの陶器製造所、同國ウヲルセ

ステルトいふ所の陶器製造所各一ッを置て二箇

一以太利のフローレンスのギノリー、ローレンゾマルチェーセといふ人の擬陶器製造、同國五子シヤの鏡及び硝子製造所各一ッ拔て二箇

一白耳時のベンゴルト及びビフルトといふ人の宮障子ふ用ふる硝子の製造ふ一ッ

ヤヵ國英区ふ〻賞牌を得たるふを東京の彩倉松ふ郎の玉細工、横須賀造船所の建築諸材及び銹國の花崗石、大理石、水晶色を帝たる硝子研出し

の硝子、まさ陶器の技ふて〻鹿児島ふ、愛知ふ、滋路の三平、京都栗田、五條坂、肥前の長崎のもの及び東京の禹工皆賞牌を得たる石川ふ九谷三重ふ萬古及び岐阜ふの万助ふ表章を得たる

博覽會見聞錄卷之九終

石印陶齋藏書目

陶齋藏書目錄

九

特39
322

東京帝國圖書館藏
新門
五部
九類
四函
五棚
七号 一〇七四 共七
TOKIOFU LIBRARY.

戊一

共七本